

# 未来ガジェット研究所 メンバーファイル[1]

Future Gadget Laboratory Member File

キャラクター&ストーリーを盛り上げる  
連載企画が今号よりスタート!!

「シュタインズ・ゲート」本編の裏側や「if」の物語を描く本作。より深くそのキャラクターとシナリオの魅力に迫るため、プロデューサーの松原達也氏、ディレクターの梶岡俊彦氏、シナリオライターの林直孝氏の3名と、各登場人物の声優陣の声を連載で聞く。



# Steins;Gate

シュタインズ・ゲート

## 線形拘束のフェノグラム



[ラボメンメンバー 001] 岡部倫太郎  
[ラボメンメンバー 004] 牧瀬紅莉栖

記念すべき第1回のメンバーファイルで紹介するのは、本編の主人公・岡部倫太郎と、ヒロインの牧瀬紅莉栖の2人。キャラクターの誕生秘話から、本編での立ち位置、最新作「線形拘束のフェノグラム」における物語の見どころに至るまで、2人のバックボーンに迫っていく。

PS3 AVG 4月25日発売予定

STEINS;GATE  
線形拘束のフェノグラム

●5pb.  
●¥7,140(税込)、数量限定版¥11,550(税込)

# 01 走査線上のジキル

— 岡部倫太郎 Dr. Jekyll on lines



▲喪服姿で未来ガジェット研究所にやってきた紅莉栖。彼女はいったい岡部に何を伝える?

正義のヒーロー、アルパカマン参上!

秋葉原の平和を守る正義のヒーロー・アルパカマン。その正体は、Dメールとタイムマシンを駆使する岡部倫太郎その人だった。唯一の理解者である、椎名まゆり手作りの「アルパカマンスーツ」に身を包み、今日もゆく岡部。そんな彼に紅莉栖が衝撃の一言を告げる。  
シナリオ：下倉バイオ

Actor's Voice

宮野真守氏 Mamoru Miyano

オカリンにはたくさん大切なものをもらいました。苦しくて、悲しくて、悔しくて、辛くて、本当に辛くて……。それでも守りたい想い。大切な人を守るために立ち向かっていく強さ。彼は僕のヒーローです。最新作ではそれぞれのキャラクターの心情を、より深く知ることができましたし、逆に皆から見たオカリンを演じて、彼のキャラクター性も自分の中で深まりました。



岡部倫太郎 RINTARO OKABE

「狂気のマッドサイエンティスト・鳳凰院凶真」を名乗る厨二病の大学生。偶然にもタイムマシンを発明したことにより、致奇な運命に巻き込まれていくことになる。

CREATOR  
INTERVIEW

岡部を救うため  
紅莉栖は何をするのか

— まずは紅莉栖についても、作品全体における立ち位置から教えてください。

林：岡部の横に立って、一緒に戦ってくれるパートナーです。初期案ではまゆりを助けるという部分が物語の根幹にあったのですが、最終的には紅莉栖がその位置になり、物語の結末も決まりました。もとは科学的なことを説明する系のキャラクターになる予定だったんですよ。

— キャラクターを立たせる上で注意した部分はありますか?

林：紅莉栖は頭のよさがきちんと出るように気を付けました。岡部の道しるべとなるキャラクターなので理論が必要なんですよ。それに合わせてセリフ回しなども考えていきました。

— 紅莉栖の知識は、実際に林さんが本を読んで勉強されたのでしょうか?

林：はい。科学ADVシリーズのシナリオ執筆前の恒例なのですが、志倉(千代丸氏)から大量の資料を渡されました。相対性理論や物理学、量子力学、ブラックホールなどの本を読んで得た知識を、作品内では紅莉栖に喋らせています。梶岡：今井さんは「自分が発している言葉の意

味がわからない」とおっしゃってました(笑)。

— セリフ量は岡部よりも多いのでしょうか?

松原：そんなことはないですが、ひとつのセリフが長いのでそう感じる方は多いと思います。

— ちなみに性格がツンデレな理由は?

林：まゆりがやわらかい性格をしているので、その対比である部分が大きいです。

— 今回のシナリオですが、岡部の「走査線上のジキル」が本編にはなかった部分を描くのに対し、「黄昏色のソーテール」は本編でメインとなった部分を別視点で描くシナリオですね。

林：岡部が行動していたときに他のキャラクターがどんな行動を取っていたのかは、ユーザーさんも気になっているところだと思いますし、我々もそこを描くことで本編の世界観がさらに広がると感じていました。そのため、担当の三輪さんからこのプロットをもらったときは、そのままOKを出しましたね。

— このシナリオの見どころは?

林：岡部がタイムリープをしているときに紅莉栖がどのような行動を取っていたのか、ですね。梶岡：あとは紅莉栖が主人公になったことで彼女の頭の中の考えのぞけるようになったことですね。この短いセリフの間にこんなにも物事を考えていたんだ、とビックリすると思います。

「紅莉栖が短いセリフの間にとれだけ物事を考えていたのかわかります」



## 「アルパカマンへの変身シーンは見どころです 誰もがビックリすると思いますよ」

CREATOR  
INTERVIEW

### 宮野さんの演技で完成された 岡部倫太郎というキャラクター

—「シュタインズ・ゲート」全体での岡部の立ち位置についてお聞かせください。

林：作品全体で考えると「シュタインズ・ゲート」は岡部の物語であり、彼が選択した未来に到達する話です。そのため絶対にはずせない人物ですね。今考えれば彼の個人的な性格はうまく形にハマったなと思います。シナリオを執筆するうえでも、その個性にはだいぶ助けられていますね。もちろん岡部という唯一無二のキャラクターが完成したのは、演じていただいている宮野真守さんのお力も大きいところですが。

梶岡：そうですね。収録に立ち会っていても宮野さんがハッキリとした「岡部像」を持っていることがわかります。その「岡部像」に合わないセリフがあると、演技方がわからず声を発せられなくなったり。

—そのセリフに感情を乗せられないと。

梶岡：そうですね。その場合はセリフを変えたり「こういう流れの上でこの状況なので」とこちらの考えを提示したりしますね。それで宮野さんが「そういう感情の流れの変化だったら言えそうです」となる場合もあるし「岡部がそういう考えだったのなら、その前のセリフの感情の乗せ方も間違っていました」と少し前まで戻って収録し直すこともあります。

—プロフェッショナルですね。

林：宮野さんは「シュタインズ・ゲート」本編で初めて声をあててくださったときから、しっかり岡部というキャラクターを把握してくださっていました。感情の流れも理解して、すべてのセリフに魂を込めて演じてくださるので、こちらからリメイクをお願いするというのはほとんどなかったですね。岡部は本当に宮野さんが作ったキャラクター像が色濃く出ている人物だと思います。もはや一体化していますね（笑）。

—なるほど。

林：あと、岡部ってヘンテコな言葉をよく使うんですけど、その言い回しも絶妙ですよ。2ちゃんねる用語は普段目にするのはあっても口にするのはほとんどないと思うんですけど、それをあーいった演技で昇華して表現してくれたことには驚きました。

—では逆に、宮野さんの演技自体がシナリオや作品に与えた影響というのもあったりするのではないのでしょうか？

林：それはありますね。ブレないところが岡部のよさでもあるので、根幹となる性格は変わりませんが、「フェノグラム」では宮野さんのアドリブから生まれたセリフを、シナリオライターさんが字面に起こしてきた、なんてことも多かったです。

—それはどういうセリフなのでしょう？

林：言葉と言うよりは言い回しですね。「助手よ」ではなく「じょーしゅーよー」になったりとか（笑）。

—字面だけで脳内再生されますね（笑）。

林：「フェノグラム」に参加されたシナリオライターのみなさんも、宮野さんのセリフを意識されているようでしたね。

—では、次に今回の「フェノグラム」についてお聞かせください。岡部のシナリオの見どころは？

林：岡部がアルパカマンに変身するのですが、そこが見どころです（笑）。

松原：変身前のイベントCGも5枚ぐらいあるので、かなり気合いが入っていますね。

—音声の収録はいかがでしたか？

梶岡：アルパカマンの部分は宮野さんもノリノリでしたね。最初は「岡部、こんなかっこうをするんですか!？」と驚いていましたが（笑）。

—かなりインパクトがありそうですね。アルパカマンはこのシナリオで重要な意味を持つのでしょうか？

林：はい。「岡部がなぜアルパカマンになったか」という部分がこのシナリオのキーになります。

梶岡：岡部があんな性格にもかかわらず、じつはいい人だということはユーザーのみなさんもすでにご存じなので、少し尖った部分も見せたかったんですね。

林：アルパカマンは下倉バイオさん（シナリオ担当）のこだわりでしたね。

梶岡：とくにこちらからオーダーしたわけではないのですが、「走査線上のジキル」は最初のシナリオに最もふさわしいものになりました。

—今作でプレイヤーは、この岡部のシナリオから遊ぶこととなりますが、これはやはり岡部が本編の主人公であることから決まったのでしょうか？

林：それももちろんありますが、シナリオを読んだスタッフたちが、満場一致で「これが1番目に読むべき物語だろう」と考えたからですね。ご期待ください。

## 好きなひとを救いたい。紅莉栖の力になれる男とは——

タイムリープマシンを完成させた牧瀬紅莉栖の前に、まゆりを救うため幾度となくタイムリープをくり返して来た岡部倫太郎が現れる。彼は何度もまゆりの死を目の当たりにし、タイムリープする気力も失い、魔人寸前となっていた。かろうじて口を開いた岡部から事情を聞いた紅莉栖だったが、

時すでに遅く、まゆりはラウンダーによって拉致された後だった。紅莉栖は、さまざまな方面に影響を持つフェイスの父にも相談するが、やはり事態の打開へは至らない。そんな中、まゆりの死が報道されてしまい、紅莉栖は泣き崩れるのだった……。

シナリオ：三輪清宗



▲何もできない自分を嘆く紅莉栖。そんな彼女のもとに父である牧瀬章一から電話がかかってくる。紅莉栖は子どものように泣き叫びながら岡部を助けてほしいと父に懇願するのだった……。

## 牧瀬 紅莉栖

KURISU MAKISE

アメリカの大学を飛び級で卒業した天才少女。とある理由で来日していたときに岡部と出会い、未来ガジェット研究所のラボメンとなる。好奇心旺盛な性格。ツンデレ。

# 02 黄昏色のソーテール

——牧瀬紅莉栖 Vermilion Sooteer



Actor's Voice

## 今井麻美氏 Asami Imai

紅莉栖は本当に生きてるんじゃないかなと思うときがあります。私が演じているのですが、私がいなくてもそこにいる……みたいな。すべてのキャラクターがいきいきとしている「シュタインズ・ゲート」ならではののかな、と思います。「フェノグラム」は各ラボメンのいろいろなお話を知ることができて、とても嬉しかったし、楽しかったです。紅莉栖ルートはとてもモノローグが多くて、紅莉栖の頭の中はこれくらいのペースで物事を考えてるのかと想像できたりしておもしろかったですね。

